

二年 組 号 氏名

● 実際に目的や条件に応じてリライトすると次のようになります。

小学校三年生になっただけの少年が主人公

少年は、家が近づくにつれ、①③ア足が重くなっていることに気付いた。①理由は分かっていた。母親に合わせる顔がないのだ。

三年生に上がってすぐ、二年生の学習のまとめのテストがあるとわかっていた。母親からも注意されていた。それなのに、春休みは遊んでばかりいたのだ。

玄関に着いた。入り口のドアを開ける。①③ウドアはこんなに重かったのだろうか。「お帰り。」母の声がする。①③ウ声はいつもより沈んで聞こえる。台所に入る。ドーナツの甘い香りがした。「遅かったね。」洗濯物を取り入れた母親が台所へやってきた。②僕は①観念して答案用紙を母親につきつけた。

母親はちよつと驚いたような顔をしたが、差し出された答案用紙と少年を交互に見て、納得の表情を見せ「びっくりしたろ。勉強せんとすぐ忘れるけんね。はよ手洗ってドーナツば食べんね。」と言って少年の頭に優しく手を置いた。

少年の母親が主人公

母親は、時計を見た。いつもなら息子のよしおが帰ってきておやつをせっつくころなのだが、今日はやけに帰りが遅い。

玄関の音がした。よしおが帰ってきたようだ。台所へ行くと、よしおがじっと立っていた。「遅かったね。」と声をかけると、よしおはだしぬけに一枚の紙を突き出した。「二年生のまとめ」と書いたテスト用紙には、見事にバツが並んでいた。①③ウたいていが満点ばかりの、二年生のテストとは大違い、よしおにとっては、初めての衝撃的な経験だったろう。それで帰りが遅かったのか。私が口を酸っぱくして勉強するように言っていたことは覚えているだろうから、よけい気まづかったのかもしれない。よしおは③アじつと一点を見るような目をしている。「びっくりしたろ。勉強せんとすぐ忘れるけんね。はよ手洗ってドーナツば食べんね。」と言ってやると、③アよしおの目から大粒の涙がぼたぼたと床に落ちた。

リライトすると…

条件Ⅰ 主人公にした人物の心情を書く。

◆① 少年が母親に合わせる顔がないと思って家に帰っているのが、「足が重い」「ドアが重い」「声がいつもより沈んで聞こえる」などの言葉に表れています。また心内語や会話にも心情が表れています。リライト作品では母親の心情が主に心内語で書かれています。

条件Ⅱ 主人公にした人物の視点から出来事を書く

◆② 「少年」が「僕」と書かれています。リライト作品では「母親」が「私」と表現されています。それぞれ語り手が主人公に寄り添っています。少年は母親の忠告を聞かなかったためにテストでひどい点数を取ったことについて罪悪感でいっぱいですが、母親は少年の受けた衝撃を思いやっています。

条件Ⅲ 表現の仕方をまねる

◆③ア 心情を行動描写で表現しています。
◆③イ 会話をを用いていますね。方言を使うことで生活感にじみ出ます。
◆③ウ 地の文に主人公の心内語を書き、読み手を主人公の心に近づけています。
上の文章の……の母親のことが分かる部分を根拠に母親の心情を想像しています。

